HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	「カルト」の被害をどう食い止めるか : 摂理とキャンパス内勧誘
Author(s)	櫻井, 義秀
Citation	中央公論, 10, 142-149
Issue Date	2006-10
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/17100
Type	article (author version)
File Information	chuko2006 - 10.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

「カルト」の被害をどう食い止めるかー摂理とキャンパス内勧誘ー

櫻井義秀

１摂理報道とカルト問題

2006 年 7 月 28 日から、朝日新聞は韓国発祥のカルト「摂理」を批判告発する報道を始めた。突然、「教祖、性的暴行繰り返す」「被害者百人超か」「国内、学生ら二千人」の見出しに多くの人は驚愕したはずだ。しかも、教祖は「神かたり人格破壊」を行い、「女性写真・名簿で選び」「直接呼び出し」「体をみてあげよう」といって「判断力を奪い乱暴」したという。教祖、鄭明析（チョン・ミョンソク）は韓国警察から信者の強姦容疑等で国際手配を受け、1999 年から 7 年間も海外逃亡中であるが、この教団、現在も活動を継続している。

摂理は、「五十大学に信者」をもち、「サークル装い勧誘」していると報道された。拠点地域の大学として 25 大学の名前が具体的に挙げられたが、筆者の勤務校も含まれる。当然のことながら、学生課では情報収集、学生への注意掲示等を急いだ。被害者の元信者は、韓国の批判団体エクソダスと共同記者会見を行い、被害者をこれ以上増やさないようにと訴えた。救援にあたる渡辺博弁護士は、日本の代表者、韓国人女性他を入管法違反で刑事告発し、次いで多くの被害女性のために教祖と幹部を刑事告発する準備があるとされる。

以上がこれまでの経過であり、括弧でくくった朝日の見出しだけでも尋常ならざる事件であることが了解できよう。宗教団体の性的スキャンダルは、従来週刊誌の記事になることが多く、週刊ポストが 2002 年 11 月に 5 回も摂理批判の特集を組んでいた。しかし、新聞各社は何も報じなかった。大方のメディアにとって、事件とは警察による関係者の逮捕や、損害賠償の民事裁判によって始まるのであり、宗教トラブルの場合「被害」の告発だけではニュースにしないのが普通である。この度の朝日には相当の覚悟があると思われる。

筆者は、1995 年のオウム真理教事件以来、大学 1 年生向けの一般教育で「カルト問題と公共性」という講義を展開してきた。摂理についても「カルトと性的虐待」というタイトルで、3 年前から学生に注意を喚起してきたところだ。民放各社が報じた女性信者と乱舞する鄭明析の映像も加えて。これは 1999 年 3 月 20 日に韓国のテレビ局 SBS が視聴率 34.4%を記録した特集の映像クリップであり、2 回分 2 時間にわたる摂理批判は被害の実態、摂理側の問題隠蔽工作等、余すことなく伝えている。韓国における摂理批判はこの後本格化し、摂理批判と元信者の相談にのるエクソダスも同年に設立されたのである。

日本でも元信者の支援を愛澤豊重・高山正治両牧師、恵泉女学園の川島堅二教授が行い、ホームページで元信者による摂理の教え、組織構造、勧誘の実態を知らせていた。元信者によるサイトもあり、こうした情報に接し、脱会を決意した摂理信者も少なくないと思われる。

要するに、摂理は今、突然出現したわけではない。被害の実態も明らかになっていたが、日本のメディアに十分注目されて来なかった。実は、このことがカルト問題一般に言える。つまり、メディアや司法機関に取り上げられ、カルトは初めて社会問題として顕在化する。カルトとして生まれた宗教はない。カルトを自称する教団もない。既成宗教から異端視さ

れ、教団内外のトラブルが社会的に問題視されて「カルト」と認識されることになる。

従って、カルト批判とは、カルトだから悪いというようなことではなく、悪いことの中身を明確にすることが重要である。同様に、カルトの行うマインド・コントロールも違法な勧誘や教え込みの実態を明らかにしなければならない。

こうした諸点を認識できないと、非現実的なカルト対策を大学や行政・司法に求めたり、韓国発祥のカルト報道から嫌韓的心理をいたずらに増やしたりすることにもなってしまう。

本論では、摂理の教団形成史を概観した後、摂理のカルト性を摂理固有のもの、宗教一般に通底する危うさに分けて解説する。そして、最後に、大学は、社会はどのようにカルトに対処すべきかを述べようと思う。

2　摂理と統一教会

摂理とは教義のことであり、韓国では JMS(Jesus Morning Star)と一般に呼ばれている。日本の摂理信者が自分達を摂理人と呼ぶことから、メディアでも摂理とされている。教団は名称変更を頻繁に行い（表 1 参照）、現在はキリスト教福音宣教会が正式名称である。本稿では便宜的に、日本における通称、摂理を用いる。

教祖、鄭明析は 1945 年、現在の大韓民国のほぼ中央部、忠清南道錦山郡珍山面月明洞（現在の摂理本部所在地）で生まれた。上の兄二人は高等学校に進学できたが、鄭は小学校を卒業後、貧しい家族のために働いた。この家族は揃ってキリスト教に入信し、鄭は進学できない恨（ハン）を信仰生活に注いだと言われる。22 歳の時に軍隊に入り、ベトナムに従軍、除隊後、牧師となった兄のつてで聖潔教団（ホーリネス）教会の雑事を任され、時に路傍伝道も行った。

30 歳の時に統一教会（韓国では統一教と呼ぶ）に入会し、2 年ほど統一教の宣教活動した後脱会する。統一教は 1954 年に再臨のメシアと称する文鮮明に創始され、1955 年には梨花女子大学生・教授の入信や、教祖・幹部、青年信者との共同生活がスキャンダラスに報じられた。文鮮明は 1960 年に信者の娘と結婚し、同年より信者同士の祝福（教祖が定めた相手との合同結婚式）を行うようになり、その後統一教会は世界宣教に大躍進を遂げる。

鄭明析にとって、わずか 2 年であるが、統一教会の教理『統一原理』と宣教活動にふれた期間は意味があった。摂理の宣教活動や教義はかなりの程度統一教会の影響を受けたものである。もちろん、真似された統一教会に摂理を監督する責任はないし、摂理が起こした諸問題に現在の統一教会が関わっているわけではない。しかし、韓国の宗教研究において、摂理と統一教会を比較して教団の特徴を論じる著作が少なくない。どのような宗教団体であれ、教義・宣教方法・組織構造には歴史的に先行する教団の影響がある。

教義面では、摂理信者が行うバイブル・スタディに『三十講論（概論）』が使われる。しかし、摂理では信者に教義を教会外部で教えること（教典の出版等含めて）を戒めている。秘教化の戦略は広範な宣教には向かないが、隠された真理を知るものという特権意識（選ばれしもの）を信者に与える効用がある。1994 年に不慮の死を遂げた韓国の著名な新宗教

研究家、卓明煥『キリスト教異端研究』（国際宗教問題研究所、1986）によれば（表 2)、14,17,19,20,26,27,28,29,30 の各章に統一教会の『原理講論』と相当程度の類似がある。

第一に、聖書の文言を隠喩として独自の解釈を行う方法。第二に、堕落の起源。神に逆らった天使が悪魔となり、イブを誘惑し、神に戒められていた善悪知る木の実を食べさせた。次いで、イブがアダムに食べさせてから、裸であることに気づき、下半身を隠したという記述を、サタンとイブの性交（霊的堕落)、アダムとイブの性交（肉的堕落）と解釈する。サタンの悪の血統が人類の祖先に流れ込み、これが原罪であるとする。第三に、救済史観。神の摂理は堕落した人類の救済史であり、多くの中心人物が立てられたが、イエスの十字架は霊的救済に留まり、完全な救済は再臨のメシアに委ねられた。それが、摂理では鄭明析、統一教会では文鮮明となる。

次に、宣教方法であるが、まずは摂理の教会形成を見てみよう。鄭明析は 1980 年に愛天教会を 2 名の仲間と作り、同年に名門大学の学生を伝道し、彼等が幹部として教団の基を築く。2 年後に韓国大学生宣教会を立ち上げるが、高麗大学において「心霊現象と現代信仰」と題した集会を開いている。鄭明析は霊感のある信者を依代（よりしろ、霊媒）とし、自身は審神者(さにわ、霊を見分け対話する)となって心霊会を開き、多くの学生を魅了したようだ。

統一教会と摂理は学生中心の伝道を進めた。初期の新宗教は一般に社会の下層から貧相病の解決と世直し願望を吸い上げるのだが、両教団ともエリート学生が幹部になったこともあり、社会の上層部から宣教を行い、世界宣教を目指した。

ところで、学生・若者中心の宣教のメリットは何だろうか。教義上の必然として、人間は祖先の性的不倫により堕落したのであるから、信者には純潔が求められる。統一教会にせよ、摂理にせよ、青年信者達の共同生活において、男女の身体接触はおろか、恋愛関係は厳に禁じられる。性的欲求が最も旺盛な青年期に禁欲を課す。二つの効果が考えられる。

第一に、性的エネルギーを昇華させ、再臨主の父性に信仰を集中化させることである。第二に、その代わり、再臨主を中心にした新しい家族創造（祝福）という未来の恵みを理想として与え、信者の活動力を導出する。先延ばしにされた崇高な恋愛のために、幾多の困難をも乗り越えるのが青年の物語である。もちろん、このような補償的理念をよしとする若者は少数派である。だから、旺盛な宣教活動の割に、両教団とも信者が少ないのだ。

統一教の日本宣教は 1959 年であり、1960-70 年代、日本の大学では学生組織の原理研究会が「親泣かせの原理運動」と呼ばれる熱烈な宣教（学生信者が中退し、献身者として教団活動に専従する）を行った。信者数は数万の単位である。摂理は、1980-90 年代に、学生宣教組織に組織を改編し、日本には 1985 年以来 20 年も布教している。信者数は数千人。

ところで、統一教会と摂理には重大な相違点がある。統一教会は教祖が結婚し、メシア夫妻の司式による祝福（合同結婚）が救済として制度化されている。制度は信者のみならず、教祖ファミリーをも拘束する。それに対して、摂理は、鄭明析が 61 歳になる現在まで決まったパートナーを持たず、恣意的な女性関係を続け、それが 1984 年以来一貫して韓国のメディアでは批判されてきた。他方、幹部や古手の信者は 90 年頃から結婚し始め、合同

結婚式を信仰生活のモデルにしようとしたが、教祖や教祖に従う多くの女性信者は非婚を選択した。家族規範が成立しないところに、恋愛の作法もルールもない。メシアの霊的救済すら教説で繰り返されるに過ぎない。制度化の失敗が、摂理に無秩序を生み出した。

しかも、鄭明析による女性信者への性的暴力には、鄭自身の元来の性癖に加えて、カオス的状況を性の恣意的支配により、組織統治に役立てようというしたたかさが隠れていた。

3　勧誘から性的被害まで

おそらく摂理報道に初めて接した人の大半が、教祖の顔写真やテレビ映像を見ながら、こんな男に若い女性がなぜと不審に思われたに違いない。こんな教団にはまるのはあまりにもバカげていると。

事実はこうだ。韓国、日本とも入信の経緯は同じである。大学ごとに様々な名前の摂理のダミーサークルがある。彼等はバレーボールやサッカー等の運動サークル、コーラス・ダンス等の文化系サークルに勧誘された。

サークルからバイブル・スタディに移行すると、ここが宗教と気づく。やめる人はやめる。しかし、自分の心をさらけ出せ、それを受け止めてくれる場と感じ、また、人を世話すること（勧誘含めて）を通して人間的成長を遂げたと思えるようになると離れられない。

男女が恋愛関係抜きに相互に思いやれる雰囲気を好ましく思うまじめな学生・青年もいるだろう。高校までの禁欲的な受験勉強後すぐに大学一年で勧誘され、摂理の堕落観や救済観を教え込まれると、ますますと世間の恋愛・結婚に対する忌避の感覚、絶対的な愛情や結婚への理想をふくらませることにもなる。共同生活で寝食・イベントを共にするようになれば、普通の友人との関係や会話も減り、摂理人だけの閉鎖空間でものを考え始める。

学生の週献金千円、社会人月給十分の一の献金ノルマはそれほどの負担ではない。むしろ、自分の時間と労力を提供することで得られるリーダーや幹事という教会組織やイベントごとの役職が満足感を与える。摂理で一般メンバーに知られる世界はここまでである。

問題は、摂理においてより真理やメシアに近づく機会が、鄭明析とのパーソナルな関係においてしか展開していかないということにある。幹部の談話によると、80 年代末から性醜聞に嫌気をさした副総裁との間に溝ができ、幹部を疑い始めた鄭が弟達を教団幹部に登用した。90 年代には出身地の月明洞を聖地化して研修施設を作り、信者を直接掌握しようとする（『自称韓国の再臨主達』現代宗教国際宗教問題研究所、2002 年）。併せて、支部ごとにリーダーとは別に女性の報告者を置き、彼女たちを通して支部や幹部の動向を監視しようとしたらしい。その際、支部によっては鄭の歓心を買おうと美人を配したというわけである（前掲の SBS 放送）。鄭は、数十名に及ぶ報告者と、支部立ち寄りの際に「身体検査」をした一般信者数百名との間でセクハラ行為を行ったと摂理批判団体は告発している。

報告者という立場で鄭と親密な関係にあった元信者や一般の信者は、鄭の行為に驚愕しながらも、教え込まれた霊的救いを行うメシアという思いのために堪えた。このことを女性の幹部（おそらくはその前の被害者）に報告しても、大要、「メシアの愛を受けたことを

誇り、感謝しなさい、最高の祝福を受けたものがメシアを裏切れば地獄へ行く」と説得されたという。被害者は、鄭の現実と、純潔主義で培った性的潔癖感や摂理で仕込まれたキリスト観との落差に驚き、恥辱感に苛まれるのを避けるために、さらに頑なな信仰で自身をなだめるしかなかったのだろう。完全に合理化しえたものは、教祖との親密な関係を特権と認識したろう。しかし、教祖の寵愛は一時のものと気づき、自分は利用された数百名のうちの一人に過ぎないと気づいたときに、そのトラウマを癒すのは容易ではない。

2002 年ソウル地方法院では、SBS 放送禁止仮処分訴訟において、1993-4 年にかけて鄭との集団性交渉はなかったと証言した証人を偽証罪により懲役 1 年に課した。また名誉毀損という摂理側の言い分に対しても、被害者の証言の信憑性と SBS による事実報道の公共性を認めている。しかしながら、JMS 信者の検事と国家情報院職員が摂理側に融通を利かせて捜査を攪乱するなど、韓国映画『美しき野獣』まがいの攻防も伝えられている(『新東亜』2006/7)。

鄭明析の性支配は、被害者と一部の幹部にのみ知られたことであるため、一般信者は摂理報道に接してもサタンの攻撃、神の試練と受け止めるものが少なくないのである。摂理の韓国語ホームページには、2006 年 4 月 4 日の MBC 正午ニュース他への抗議がある。香港で 2003 年に同時に暴行された信者女性 2 名の報道には「宗教的権威によって、仕方なく性暴行されたと主張することもできるが、これらは皆、高学歴の所持者で判断力を持った者等で、家庭の状況上、似以非（さいび）宗教の弊害に対しては誰よりもよく分かった」はずではないかと述べている。

しかし、規模の大小はあれ、様々な理由を付けてカルトは教祖による性支配を実践していた。1993 年に FBI と壮絶な銃撃戦の末、80 名の信者を道連れに集団自殺したブランチ・ダビディアンの教祖は女性信者と聖なる結婚をしていたし、多妻婚を教義の一部としていた初期のモルモン教や、その分派で多妻婚を現在も続けている複婚主義者達など枚挙にいとまがない。

4　キャンパス内勧誘に対して大学に打つべき手はあるのか

摂理の違法行為は二点ある。第一に、教祖による性暴力。第二に、正体を隠した勧誘行為は、学生達の信教の自由を侵害した。彼等には十分な情報と判断できる環境のなかで宗教を選択する自由が保障されなければならなかったのである。摂理や JMS の名前、教祖の醜聞、活動内容を予め明かしたら誰も来ないということを見こして、ソフトなサークル活動から徐々に宣教を試みたのだろうが、卑怯である。元統一教会信者が同種の勧誘行為を受け、信者にさせられたとして統一教会を訴えた事件では、最高裁が違法な伝道という判断を下している。

摂理はキャンパス内で問題ある勧誘を行う団体の一つに過ぎない。摂理が出たら摂理に注意、〇〇が出たら〇〇に注意。こんな掲示はさして意味がない。ダミーサークルを使うから問題なのであって、しかも、ダミーの名前は大学当局にも学生にも分からないのだ。

大きな大学になると一つの硬式テニス部の周囲に数十のテニス・サークルがある。運動

系からナンパ系まで様々。これらをいちいち監視するのは不可能だし、質はともかく、サークルの若者組的機能は大学生の社会化に必要である。監視や管理よりは原則の確認と、具体的な学生へのオリエンテーションこそ効果的である。これは筆者の年来の持論だし、北海道大学学生部にも長らく言い続けて、近年は実施してもらえるようになったものだ。

大学はキャンパス内で学生の自律的判断や選択の自由が損なわれることがないように、違法行為は見逃さないという気概をまず持つべきだろう。従来、大学教員の心構えにもいささか問題があった。

第一に、「特定集団を対象とした注意勧告は公平でない」「社会的少数派に居場所を与えてこそ大学らしい」「悪を認識・許容できない善の方がよほど怖い」といったもっともらしいが、その実自分が住む社会を守ろうとしない無責任な「原則リベラリズム」。第二に、大学人は研究者という教師としての生業を忘れたようなアイデンティティ。学生・大学院生の教育・指導が大学人の本務である。学生を守るという気持ちなしに対策等ありえない。

具体的には、新入生向けのオリエンテーション時に、キャンパス内勧誘の諸問題があること、サークル名・活動内容を秘匿した勧誘に応じないこと、不安な時は学生相談室や担任にいつでも相談してよいと言う。入学時は忙しいが、30 分でも担任教員が例を挙げながら、真剣に話すだけで被害の半分はなくなる。今時の学生は心配性だし、相談相手は少ないし、相手にノーと言えない優しい、気だてのいい子達だ。皮肉な言い方をすればカモである。

本誌読者の大学生をお持ちの親御さんには、日常、或いは帰省時に息子・娘の成長ぶりをみながら、親や世間を急に敵視して、どこかで聞いたようなことを言い出さないか、或いは、下宿を急に変わったりしていないか確認してもらいたい。時に、宗教の話題やカルトの話題などふってみてはどうだろうか。親子関係や友人関係がうまく機能しているうちは、ズルズルと深みにはまることはない。カルト側が魅力的になったら向こうへ行く。本当の教化はそこから始まる。そこでもある程度の宗教的知識や論理的思考力があれば、それ以上には進まない。ここでこそ、日頃学問を教示している教師の力量が問われるのだ。

表１　鄭明析と JMS

1945　　鄭明析、出生（6 男 1 女の 3 男）
1980　ソウルで愛天教会設立　幹部入信
1982　韓国大学生宣教会創立
1986　日本支部設立
1989　世界青年大学生 MS 連盟と改称・組織改編
1996　国際クリスチャン連合と改称・組職改編
1999　キリスト教福音宣教会と改称・組織改編
　　SBS の告発報道　鄭明析出国
2000-　宣教会・被害者相互に提訴・裁判

表２

30 講論の項目

入門　1)聖書観、2)太陽よ止めなさい、3)エリヤ、空の鳥の餌食、4)7 段階法則、5)三分説、

初級　6)比喩論、7)火の概念、8)末世論、9)無知の中の相剋世界、10)洪水審判、11)異端の概念、12)予定論、

中級　13)中心人物論、14)復活論、15)サタン論、16)カインの性格、17)霊界論、18)啓示論、19)メシア資格論、20)地上天国論、

高級　21) エリヤとキリストの再臨昇天実際比較、22)キリストと洗礼ヨハネの関係使命、23)ユダヤ教とキリスト教の教理比較、24)二つのオリーブの木と二人の証人、25)ひととき、ふたとき、半分、26)創造目的、27)堕落論、28)救援論、29)再臨論、30)歴史